

| | | | |
|--------------------------|--|---------|---|
| 1. 科目名 (単位数) | 英語講読IV (2単位) | 3. 科目番号 | EDEN2311 |
| 2. 授業担当教員 | 山口 敬雄 | | |
| 4. 授業形態 | 講義・演習 | 5. 開講学期 | 春期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | | | |
| 7. 講義概要 | 本講義では、基本的な文法事項と読解力の基礎を応用して、複雑な構文からなる英文を読む力を身につけるため、文学的英語テキストを精確に読む。英語テキストを正しい語彙と正しい文法で読むことはもちろんのこと、小説であるがゆえに生じる「行間」の意味作用をも、正しく追及する。また、文学作品が何らかの形で言及するところの西洋的な価値基準について検討し、日本と対照的な英米の諸相を概観すると同時に、両文化に共通する生命への価値観を考察する。 | | |
| 8. 学習目標 | 1: 英米文学作品における英語表現を精読することができる。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができる。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができる。 | | |
| 9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題 | 英語の基本的な文法事項を総点検するために、高校英語の入門的な練習問題を毎週課す。また、英語長文を読解するために習熟しなければならない特殊構文 (倒置、強調構文、省略等) の練習問題を毎週課す。学習方法や課題の提出方法等については、初回に詳しく説明する。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 ダール著、西田実編註解『少年』成美堂。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 1: 英米文学作品における英語表現を精読することができたか。 2: 英文法・構文の知識を確実に修得し、長文を読み通すことができたか。 3: 英米文学作品の歴史的・文化的な背景を知悉し、説明することができたか。 ○評定の方法 期末テスト: 50% 小テスト・課題等: 25% 受講態度・その他: 25% | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 指定した範囲を事前・事後に必ず読んで、予習・復習すること。その際、不明な点、疑問に思った点を書き出し、その解決に努めること。辞書を必ず持参すること。 | | |
| 13. オフィスアワー | 初回にアナウンスする。 | | |
| 14. 授業展開及び授業内容 | | | |
| 講義日程 | 授業内容 | 学習課題 | |
| 第1回 | “First Day,” pp. 8~9. 読解練習、R・ダールと英米文学史概論 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第2回 | “First Day,” pp. 10~11. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第3回 | “First Day,” pp. 12~13. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第4回 | “Writing Home,” pp. 14~15. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第5回 | “Writing Home,” pp. 16~17. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第6回 | “Writing Home,” pp. 18~19. 読解練習、小テスト、ディスカッション、R・ダールとイギリス文学概論 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第7回 | “The Matron,” pp. 20~21. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第8回 | “The Matron,” pp. 22~23. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |

| | | | |
|------|---|------|---|
| 第9回 | “The Matron,” pp. 24～25. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第10回 | “The Matron,” pp. 26～27. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第11回 | “The Matron,” pp.28～29. 読解練習、小テスト、ディスカッション、R・ダールと児童文学概論 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第12回 | “Homesickness,” pp. 30～31. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第13回 | “Homesickness,” pp. 32～33. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第14回 | “Homesickness,” pp.34～35. 読解練習 | 事前学習 | 英文法を応用しながら、英文を何度も読み返して、構文と意味内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 誤解、理解不足、疑問があった点を確認しながら、英文の構文と意味内容の理解を深めること。 |
| 第15回 | “Homesickness.” pp.36～37. 読解練習 ディスカッション及びまとめ | 事前学習 | 前回まで読解練習した物語全体の内容を把握すること。 |
| | | 事後学習 | 各自物語の人物像から自己の生き方を考えてみること。 |
| 期末試験 | | | |